



羅針盤

梅林 芳弘

Yoshihiro Umabayashi

秋田大学大学院医学系研究科 皮膚科学・形成外科学講座 准教授,
Visual Dermatology 編集協力者



本特集 (snap diagnosis トレーニング帳) の使い方

Snap diagnosis というのは、snapshot のように瞬時に閃き下される診断のことです。視覚情報に負うところが大きく、「見ればわかる」と表現されます。ゆえに皮膚科疾患の多くは snap diagnosis で診断がつきます。これが皮膚科診断の醍醐味の一つであり、これに魅せられて皮膚科を選んだ向きも多いのではないかと想像します。本号では、この魅力を大きくクローズアップしてみました。

本誌人気シリーズの「知らないとはずかしい皮膚疾患」の軒をお借りすることができたのは幸甚の至りです（「似たような企画だね」と思われているのではないかと、寧ろ汗顔の至りですが）。ただし、本特集で提示した症例には、私も初診時点で「知らなかった」ものが幾つもあるので、読者諸賢には「知らないとはずかしい」の文言をあまり気にされずに楽しんでいただければ、と思います。

以下、従来の「知らないとはずかしい」シリーズと構成が異なる点がありますので、「本特集の使い方」として、幾つか説明しておきます。

1. 2問ずつ解いてください。

症例数を多くするため、1ページ上下2問の構成にしました。上の1問を解いてページをめくった際、下の問題の答えが視野に入ってしまうと興味索然となります。2問見てからページをめくることをお勧めします。

2. 解答に時間をかけないでください。

一瞥し、ちょっと考えてわからなければ、すぐに答えを見ることをお勧めします。ミステリを読む時に、犯人は誰なのか本を置いてじっくり推理したりしない（ですよ？）のと同じです。

3. 解説は、やや奔放です。

問題を1ページ2問にしたので、解説スペースも半分になりました。疾患の一般論を詳細に述べることより、

どういうパターンで診断に到るのか、どこに pitfall があるのか、などの clinical pearl と思われる内容を、やや自由な筆致で書いています。こういう企画では解説文を飛ばしてしまうお急ぎの方は、診断の骨子を凝縮して示した「diagnostic pearl」だけ一瞥（チラ見）していただければ、と思います。

4. くり返しトレーニングしてください。

写真を見ただけで診断が思い浮かぶまでくり返されることをお勧めします。それは問題を記憶しただけだろうと思われるかも知れませんが、そうでもありません。試験対策ではまず過去問を暗記するくらいくり返す（ですよ？）のと同じです。飽きたら、似たような企画（冷や汗）に当たってください。重要な疾患は、くり返し取り上げられていますので。

5. 難易度は目安です。

一応、レベル1を「研修医レベル」、2を「専門医レベル」、3を「指導医レベル」に設定しましたが、とくに根拠に基づいてのものではありません。レベル4は何かというと「解けない」です（難問・トリッキーな症例）。でも、くり返せば、解けるようになります。

6. 理論に興味がある方は、斎藤環先生の「Dermatological View」を読んでください。

とくに文系的論考に親和性のある方にお勧めです。どうしてこの著名人の原稿を貰うことができたのか、そのへんは謎にしておこうと思っていたのですが、斎藤論文の冒頭で明かされています。その辺りに興味がある方（いればですが）もどうぞ。もしよければ、梅林の総説（p.554）にも一瞥（チラ見）いただければ、嬉しいですよ。

さて、60問はちょっと多いかもしれませんが、どうぞ楽しい航海を！